

社員のチカラを結集してより質の高い企業に！



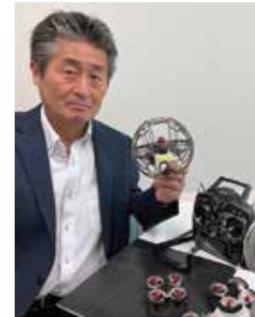
村上興業株式会社

■滋賀県甲賀市水口町南林口 6
 ■<http://www.biwa.ne.jp/~m-kougyo/>
 ■0748-62-0240 ■従業員数 20 名



会社概要

昭和48年の創業以来、測量・建設コンサルタントとして「的確で柔軟性に富むサービスが必要に応じスピーディーに提供できる即応体制の充実」を目標とし、公共事業から民間事業等幅広く、良質なサービスを提供するという使命を果たしてきました。地質調査や測量などでは、ドローン等を活用し、多様化・高度化しているニーズに応えています。また、地域に密着した活動にも力を入れており、甲賀市域の企業が形成する「イクボス KOKA ネットワーク」の副代表として様々な企画に参加しています。



代表取締役
臼井義人さん

人材不足が深刻化する業界の中で生き残るために、ドローン等のデジタル技術を活用して測量や土木設計の一部をDX化し、人間の判断や知識・経験が必要な技術をより磨くことで、組織としての生産性が向上し、従業員だけでなく関係する人たちが豊かになる事を目指しています。地域の事業に協力したことはドローンを使った4K動画の撮影やPR動画の撮影という新事業展開を考えるきっかけになりました。今後も技術を通じて新たなことを創造できる会社でありたいと思っています。また、性別、年齢、業種を限定せず、特性に合わせた業務を行ってもらい、一人ひとりのチカラが集結した質の高い企業にしていきたいです。

STAFF VOICE



技術部 設計課長
池田泰之さん

アドバイザー派遣での研修を受講して、業務の中でムダなことが多かったということに改めて気づきました。協議先への事前資料の依頼は期限を決める等、手待ちによるムダを減らしていこうと思います。また社内の工程会議では、状況を報告しあうだけでなく、進捗を密に連携することで社内の協力体制を強化したり、知識や経験を共有することで社員全体の技術力向上の場にする等、より密度の濃い内容にしていきたいです。

STAFF VOICE



技術部
増山有希子さん

技術部の中での様々なサポートをしたり、ドローンの申請などを担当しながら、新たなことを提案したりもしています。この会社には土木の経験ゼロで入社しました。やる気と興味があれば男女問わず様々な経験ができる会社なので、知識と技術を高めながら柔軟に業務ができるところが魅力だと感じています。今の業務のやり方を見直して、効率化を図り、余力を残した業務の進め方にシフトし、社員全員がクリエイティブな働き方ができればと思っています。

STAFF VOICE



技術部
社納怜音さん

在職1年目で、先輩や上司に同行して様々な経験を積みながら、一人で案件を担当できるように日々学んでいます。今は、ドローン測量を練習して現場で活かせるように技術を高めています。今回の研修で、情報を共有することが仕事の効率化につながるということを改めて学ぶことができました。この学びを活かし、効率的な働き方をして、プライベートでは趣味の読書を通じて知識を充実させていきたいと思っています。

「村上興業」がめざす姿！

生産性の高い働き方の実現により、地域で選ばれる企業になる。

社員それぞれが技術を持ち、一人で仕事を遂行する職人気質な働き方をしており、個々の業務の進捗状況が共有不足であることから、「手戻り」や「手待ち」が発生し非効率的な部分があった。

そこで、会議の中での工事の進捗情報の共有を徹底し、効率的に業務を進めることで生産性を高め、短時間労働・高収入を実現し、多様な人材から選ばれる企業を目指す。



アドバイザー派遣でのアクション

実施内容

社外との打合せや、社内での工程会議等で業務に必要な情報を短時間で正確に伝えあうためには意思疎通のスキルが重要であることから、全社員を対象とした「組織コミュニケーション研修」を実施した。

研修の中では「効率的に協議を進めるスキル」を向上させるためのロールプレイングを実施するとともに、「社内での工程会議の内容をより有効にするためのポイント」を伝え、参加者同士での意見交換を行い、理解を深めた。

こうした研修により、業務で必要な情報を「短時間」で「正確」に伝える重要性とそのための行動への理解を深めることができた。



さらにステップアップするためのポイント

● 継続的なコミュニケーション力の向上のための「学習機会」の継続

実業務での課題や成功例を社員それぞれが持ち寄り、互いに学習し合うような研修の場を持ち続けることが、社員のモチベーションを高める意識的な取組となり、組織全体でのコミュニケーション力の向上につながります。

● タスクの共有化による「協力し合う体制」づくり

進捗が滞っているところを協力して進めるために、工程会議の中で個々の案件の進捗状況を見える化することで、個々のタスクを共有し、余裕がある社員で協力し合える体制をつくるのが重要です。そのことにより会社全体として生産性の高い働き方を実現することができま